

第 1 回検討会議資料における質問回答について

資料 1

No.	御意見	市の考え方
1	両市町の人口予測	第 3 回検討会議 資料 2 でお示しいたします。
2	両市町の大規模開発計画の有無	上尾市・伊奈町ともに大規模開発の基準を設けておりませんが、新ごみ処理施設の同規模（6ha）の計画はありません。
3	両市町のごみ排出量予測	第 3 回検討会議 資料 2 でお示しいたします。
4	両市町の可燃ごみについて、H27～29の家庭系・事業系・総排出量は減少傾向にあるが、H30・31は増加傾向にある。その理由は何か。	<p>【上尾市】</p> <p>明確な増加理由は不明ですが、消費動向、社会経済の活性による事、平成31年度は台風19号の被災ごみ発生が要因として考えられます。</p> <p>【伊奈町】</p> <p>事業系については、平成28年10月に手数料改定を行った影響からH27～29は減少したものとされます。家庭系につきましては、各年一人当たりで換算するとおおよそ2～3kgの変化であることから、大きな要因があるわけではなく、排出量のばらつきであると考えております。</p>
5	ごみの分別方法の統一は、完全に実施するのか否か。	完全に統一する方向で検討しておりますが、国や県の動向や、収集体制への影響などを考慮して検討してまいります。
6	高効率ごみ発電施設に特化する理由。	温室効果ガスの排出削減や、発電供給による地域の価値創出の観点から、高効率でエネルギーを回収することがごみ処理施設に求められています。また、高効率ごみ発電施設とすることで、建設時に利用する「循環型社会形成推進交付金」において、通常より高い交付率で交付を受けることができます。（通常：1/3⇒高効率：1/2）

No.	御意見	市の考え方
7	上尾市では、高熱焼却をしているので、熱量を上げるためにプラスチック類を生活ごみと一緒に出してよいと聞いています。今までに有害物質の発生などのデータが知りたいです。	<p>上尾市西貝塚環境センターでは、法律等で定められた値より厳しい値の施設基準を定め、その測定結果は以下のとおりです。</p> <p>過去の実績も含めてすべて基準値以内となっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩化水素：施設基準 20ppm→平成 31 年度実績 3.8ppm ・窒素酸化物：施設基準 70ppm→平成 31 年度実績 40.5ppm ・硫黄酸化物：施設基準 20ppm→平成 31 年度実績 2.9ppm ・一酸化炭素：施設基準 50ppm→平成 31 年度実績 9ppm ・ばいじん：施設基準 0.01g/m³N→平成 31 年度実績 0.002 g/m³N 未満
8	<p>【資料2 広域化の概要】</p> <p>表2「広域化のメリット」の表の中の環境のところ、「全連続炉にする」というのは、今現在上尾市の西貝塚の処理方法と同じなのでしょうか。</p>	<p>上尾市の西貝塚環境センターと同じ処理方法である24時間稼働する炉のことを「全連続炉」と言います。</p>